

天使大学の育成する管理栄養士

栄養学科長 中川 幸恵

■管理栄養士の未来

まず、「ITにより管理栄養士の業務はどう変わっていくのか」について述べたいと思います。管理栄養士の未来を考えていく上で見過ごせないのは、技術の発展とその影響度と考えます。例えば、「献立の栄養素の計算」や「バランスの良い献立の立案」など、これまで管理栄養士の専門書を参照しなければ得られなかった情報も、インターネットの発展やスマートフォンなどの普及によって簡単に入手できるようになりました。情報そのものが溢れ、選択肢が増えるのに合わせて、人々の価値観の多様化が進むといわれています。しかしながら、この情報をそれぞれの方にどのように生かしていくかを考え、アドバイスできるのは専門職である管理栄養士であると考えます。栄養領域では必要な栄養素さえ摂取できれば良いという効率を求める価値観と、「そうすることが正しい」とわかっていてもできない中で何らかのアドバイスが欲しいという人間的価値観が共存し、食におけるQOLも多様化していくと想定されます。また、「食べる楽しさ」といった数値化できない食におけるQOLに求める側面は未来においても価値が残ると考えられ、管理栄養士には、天使大学の専門職教育でも学ぶ、この人間的側面を追求した「人に寄り添った支援」が求められます。さらに、これらの価値観やサービスは多様化し、これらのニーズに適切に対応できる管理栄養士が求められていくでしょう。天使大学で学んだ管理栄養士は今後の栄養領域において知識やスキルを生かしながら、自身の業務や働き方を柔軟に進化させることができる人材になると思います。



■管理栄養士の強み（我が国の栄養政策の変遷から）

管理栄養士業務の本質は「食（栄養）を用いた支援を通して人々の幸せを実現すること」にあると考えます。日本の栄養の歴史を辿ると、管理栄養士・栄養士の活動は戦前から開始され、戦後の栄養欠乏の早期解決を実現したとされています。その後の高度経済成長期では、栄養の偏りや運動不足による肥満・生活習慣病の増加を抑制してきました。現在では、高齢者のたんぱく質を中心とした栄養不足によるサルコペニア対策に向けた実践活動に力を注いでいます¹⁾。管理栄養士はその時々人々が求めることを、栄養を通して実現してきたといえます。多様な領域で活躍できることも、管理栄養士の強みともいえます。病院・福祉施設・学校・保育所・保健所・企業など、資格を活かして多くの職場に貢献できる専門職業人はいません。近年では、病院における診療報酬や福祉施設における介護報酬といった各種制度の中で管理栄養士の立場が考慮され、管理栄養士は多様な場所での配置規定も定められている「優遇された条件を与えられた」職業となっています²⁾。

■管理栄養士が行う疫学研究的必要性

令和2年（2020年）に行われた診療報酬の改定により、栄養情報提供加算（50点）が新設され、その概要³⁾には「入院医療機関と在宅担当医療機関等との切れ間ない栄養連携を図る観点から、退院後も栄養管理に留意が必要な患者について、入院中の栄養管理等に関する情報を在宅担当医療機関等に提供した場合の評価として、栄養情報提供加算を新設する」と示されています。私たちがこれまでに行った疫学研究^{4,5)}でもこの栄養情報提供加算の新設に繋がった根拠が示されており、栄養情報が提供されることで栄養管理計画や栄養ケアプランの業務負担の改善につながり、さらに食形態やとろみ調整食品の決定の参考にもなります。臨床の現場で研究を行う最大の目的は、現場でケアを行う際の質の向上です。今後、管理栄養士には日常診療の中で自らエビデンスを作り上げていこうとする姿勢が求められます⁶⁾。

■おわりに

管理栄養士として、生涯にわたって食・栄養・健康の課題解決に従事するためには、氾濫する情報の中からそれぞれの時点でエビデンスに基づいた専門的情報を収集し、それを状況に応じて活用していく知識やスキルを身につけることがより重要であると考えます。

天使大学の教育において、個々の課題に関係したエビデンスを検索し、評価し、統合的に判断し、課題に適応して実践でき、生涯にわたって自分で考え、学習できる管理栄養士を育成していきたいと考えています。

引用・参考文献

- 1) 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）改定検討会 我国社会保障制度の現状と課題 H30.9. 20 <https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000358651.pdf>
- 2) 千葉竜太, 2050年、管理栄養士・栄養士の未来を考える, 日本栄養士会雑誌, 64(5), 244-249, 2021.
- 3) 厚生労働省保健局医療課、令和2年度診療報酬改定の概要（総論）<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000666010.pdf>
- 4) 宮崎純一、中川幸恵、他、医療栄養情報提供書発行の有用性について、日本栄養士会雑誌, 60(6), 327-335, 2017.
- 5) 田中百合、中川幸恵、他、管理栄養士の入院支援参画における有用性の検討、日本栄養士会雑誌, 62(9), 479-487, 2019.
- 6) 本田佳子、日常臨床と栄養疫学研究 - 管理栄養士・栄養士にも求められること - 臨床栄養, 139(2), 8170-8174, 2021.

新任教職員紹介 経験を糧に



憧れの地・札幌、そして天使大学へ。今年4月より看護学科に着任しました。看護教育は日本赤十字社の短期大学・専攻科で看護師・助産師の資格を取得しました。その後、20代はNICUの看護師、助産師として300例近くの分娩介助をしました。30代は看護教員となり、基礎看護学や母性看護学の講義や実習に携わりながら、一般大学の2部に

通い教育学修士課程を修了しました。教員と学生の生活を通して、看護学生の母性意識の変化や父親のかかわりからみた出産準備教育その変遷について、研究しました。40代は国会議員の秘書として、保健師助産師看護師法の改正（「婦」を「師」にかえる）について、議員と一緒に法案作成に関与しました。衆参両院で、議案が成立される場に立ち会うことができたことは、看護職として貴重な体験となっています。政策秘書時代は、看護系国会議員の国会活動とそれに対する看護職者関心について、また、看護師の定義についての調査研究も手がけました。

その後、JICA（独立行政法人国際協力機構）のシニア海外ボランティアになり、エジプトのヌエスカナル大学医学部付属病院で現地のスタッフと一緒に働くとともに、感染予防対策としての手洗い指導や

進行大腸がん患者の治療と就労の両立を支援する研究

看護学科助教 芦名 葵



私は天使大学を卒業後、がん専門病院で主に乳がんや消化器がんの患者さんの手術期看護を提供していました。臨床を離れてからは実習指導教員として学生指導を行い、学生と関わっていく中で母校である天使大学の教員として働きたいと思い、天使大学大学院看護栄養学研究科看護学専攻成人看護学コースへと入学しまし

た。修士論文の研究は、就労可能年齢にある進行大腸がん患者の診断時から初回治療開始前における就労に関する体験を明らかにするものでした。日本人の2人に1人は何らかのがんに罹患すると言われており、その中でも大腸がんは罹患数が第1位であり30歳代から罹患しています。そして、がんと診断されて退職をする人の約6割は手術や化学療法などの治療が始まる前に退職する現状がありました。特に、30歳代以降は仕事や家庭で役割を持っている年齢であるため経済的にも仕事を続けなければならない中、がんを診断された時期に治療との両立を前向きに捉え、仕事を継続させていくための支援はないのかと考えたことがこの研究を進めるきつ

看護職養成の教育についての研究



2004年に専門職大学院として開設され、開設18年目を迎えた現在でも、日本で唯一の助産の専門職大学院として助産師教育を担って修了生が輩出されています。学修では、モジュール学習（learning module）として、十分な学習時間をかければ、どのような課題でも達成できる（完全習得学習）という考え方に立って、学習目標を明確にし、目標達成を確認し、学習を保証する手段として提唱された方法を導入しています。学習者が主体的に行動し理解できるように工夫がされています。私も本学の専門職大学院でこの教育を受けて教育分野を修了致しました。

専門職大学院修了後、教員として自己研鑽をしながら他大学で経験を重ねてきました。また、3年間、ブラジル連邦共和国アマゾンナス州マナウス市で養護教諭のボランティア活動をしながら日系人社会での暮らしを体験させていただきました。海外での生活は初めてで、ポルトガル語の上達は難しいですが、言葉の壁を挨拶と感謝の言葉、そして笑顔で乗り越えてきました。どうもありがとうございます！「Muito obrigado！」が一番使用した言葉でした。現

看護学科准教授 峰岸 まや子

外来病棟の環境整備等に2年間従事しました。帰国後は、日本助産師会事務局で東日本大震災の助産師ボランティアを支える業務につきました。50代は、助産師教育（大学別科、助産師学校長）に携わりました。その中で、助産師の大先輩である「産婆」に興味を持ち、初代大日本産婆会長だった柘植アイさんの偉業や助産婦の代表として参議院議員になった横山フクさんの業績についての文献研究にも取り組みました。

40年ぶりに実家のある埼玉県に戻り、訪問看護ステーションの立ち上げに関わり、60代で新しい挑戦ケアマネージャーの資格も得ました。加えて、過疎地における母子保健相談事業を広域で実施する意義について、各市町の首長や市議会・町議会議員へ陳情して、「ほっとハグくむママサロン」の開設に力を注ぎました。

今までいろいろな経験をしてきました。その中で、私がベースにしていることは、いつも看護師・助産師の立場で考えてみることでした。そして、経験の中から、疑問が生じる内容に関して研究してきたことが私の強みだと思っています。私のモットーは「案ずるより産むがやすし」です。まずは目の前にあることにチャレンジ。ご縁を大切にしつつ、明るく元気に前向きで、天使大学で頑張っていきます。一緒に看護の道を歩んでいきましょう。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

かけでした。10名の進行大腸がん患者様に診断時から初回治療開始前の状況を聞かせてもらった結果は、がんの診断時にショックを受け病状が明らかになり困惑している状況の中でも仕事のことを考えていること、同病者の体験やインターネットからの情報を得て、がんを診断されても仕事を続けることは当たり前と考えているということでした。そして、その継続の意思を支えていたものは医師や職場の理解と家族でした。

現在、入院の短縮化や外来の多様な業務により看護師が一人の患者と関われるのは限られた時間となります。看護師は機会を逃すことなく患者の仕事への意思、価値を捉え支えていく必要があると考えられました。また、仕事の価値は診断された時点での患者の年齢、性別、役割、病状などにより変化があると考えられ、違う方向から検討していく必要があると考えています。医療技術の発展によってがんは早期発見によって治る病気で、慢性疾患と考えられています。がんを罹患したからといってその人の生活が脅かされることのないよう、がんを診断されてもがんと上手に付き合いながら仕事が継続できるように、引き続き研究に取り組んでいきたいと思っています。

助産研究科准教授 片倉 裕子

在もブラジル連邦共和国在住の家族「familia！」との交流は継続をしています。

研究では、学習者が意欲をもって学習に取り組める場合と時間が必要な場合があることに気づき、誰もが意欲的に学習に取り組んで欲しいという願いから、自己効力感を高める要因について検討をしてきました。また、情報通信技術ICT（Information and Communication Technology）を導入することで看護職養成教育を受ける学習者が意欲的に取り組むことができるように研究を継続しています。そして、海外で暮らす日本人の母親の子育てについて、異文化での育児感情を研究しています。今後も治安や文化、教育などの異なる環境下での育児感情について検討をしていきたいと思っています。これを学習者に還元できるように研究をしています。

教育では、助産師を目指す学習者に、講義、演習、実習で双方向の学習を導入することで、その効果を実感してきました。新型コロナウイルス感染症の影響下での教育であり、教育方法の工夫が必要ですが、対面とオンラインを活用して最大限学習者が理解できる教授方法を考えていけるように自己研鑽をしていきたいと思いま

心と身体を元気にする管理栄養士を育てたい

栄養学科講師 蜂谷 愛

この春から栄養教育論を担当しています。天使大学でお話しする機会を最初に頂いたのは2017年で、栄養学科の4年生に「21世紀における管理栄養士のあり方」というテーマで外部講師として話してほしい、ということでした。専門性だけでなく創造性をもって社会貢献できる人材育成を行う天使大学の教育方針に触れ、感銘を受けたことを覚えています。翌年から非常勤講師を務め、2022年に入職しました。新旧の棟が繋がる学内は厳かな雰囲気と共に明るさを感じます。学生の笑顔や教職員の皆さんの学生への温かい指導が印象的で、空気感を作る一因になっているのではないかと思います。

担当科目でもある栄養教育は、対象となる人の「心」と「身体」が本来の力を発揮して、その人にとって納得できる生き方を支援する方法のひとつだと考えています。このスキルの向上は私が管理栄養士を目指したころからのテーマです。

管理栄養士としての経験は保険薬局のグループ会社で積みました。生活習慣病の発症予防を目的とする特定保健指導、糖尿病や高血圧など治療のためにクリニックを受診する方への栄養指導、在宅で療養する方への訪問栄養食事指導、介護予防教室、スポーツ選手の競技力向上

北国における健康づくりに関する研究

栄養学科助教 吉田 拓登

「国民の健康課題解決のための研究をしたい！」「栄養士の育成に携わり、現場で活躍する栄養士を支援したい！」との思いから、今年4月より栄養学科助教に就任いたしました。担当する分野は公衆栄養学です。

これまでは、市町村保健センターに勤務する管理栄養士として、妊婦や乳幼児の保護者、成人、高齢者など幅広い世代の住民へ栄養指導を担当し、その後はフリーランスの管理栄養士、市町村の保健事業に関わるコンサルティング企業など、様々な現場で経験を積んでまいりました。

取り組んできた研究は「北国における健康づくり」です。北海道は土地が広いため車を利用する人が多く、冬期間は積雪により活動量が減少する特徴があり、肥満や生活習慣病の増加、高齢者の運動機能低下が危惧されており、そのため、雪が降る季節でも安定して活動量を確保することができる健康づくり体操や健康づくり教室の開催について研究をいたしました。

結果として、健康づくり体操が心身に与える影響についての研究では、聞きなじみのある音楽に合わせて考案された体操を実施することで、気分がポジティブな状態へ改善できることや、室内で行える体操でも健康増進に



や部活動をする子どもの食育を目的とした栄養教育、地域での健康イベントなど様々な年代、健康状態の方に関わりました。これらの経験を通して「心」「身体」「地域性」「多職種連携」の重要性を理解し、柔軟性・創造性を持って栄養教育に取り組むことでより効果的な関わりができるということ学びました。「心」については専門性を高めるため大学院の修士課程で臨床心理学を専攻し、食行動とメンタルヘルスのつながりについて研究しました。

現在はスキージャンプ選手や高校の運動部へのスポーツ栄養サポートをフィールドワークとするほか、博士課程で公衆衛生学を学んでいます。主な研究テーマは「スポーツ栄養学の理論を取り入れた子どもの健康づくり」「医療系大学生のための健康プログラムの構築」です。研究は始まったばかりですが、これまでの経験とこれからの研究成果を学生の教育に還元し、学生が自身の能力を磨いて発揮し、対象のためにオンリーワンの栄養教育を提供できる管理栄養士の育成に貢献していきたいと思いま

必要な運動強度の確保は可能であり、繰り返し実践することで活動量の増加に寄与できる可能性が示唆されました。また、室内で実施できる健康づくり教室の効果に関する研究では、地域の高齢者を対象に定期的な健康づくり教室を開催することで、参加者の歩幅や椅子から立ち上がって歩く力などを維持・改善できることが示唆されました。

少子高齢化が進む日本において、健康の維持増進は重要なテーマとなっています。今後も様々な地域を対象に、地域全体の健康課題の調査や、住民の健康状態の改善方法について研究を進め、健やかで活力ある社会を目指す一助となれるよう活動していきたいと思っております。

最後に、私自身は天使大学の卒業生ではありませんが、大学生時代に病院実習で天使大学と合同での実習となった際に、同学年である天使大学生の学びに対する姿勢や、思いやり溢れる立ち振る舞いに感銘を受けた思い出があります。現在の天使大学の学生たちが当時と変わらず、愛と学びに溢れる管理栄養士になれるよう、講義や学校行事を通して学生とともに学びを深めていきたいと思いま



「相談室紹介」ほっとできる場所へ

保健相談室 宮路友絵

今年の4月より保健相談室を担当しています。宮路友絵と申します。私は天使女子短期大学衛生看護学科・専攻科の最終学年として学生時代を過ごしました。卒業後は大学に直接関わる機会はありませんでしたが、病院や保健センターで先生と再会したり、天使で共に学んだ仲間に出会った際に、何とも「ほっとする」温かい気持ちになっていました。そして今年久しぶりに大学を訪れ、新しく開放的な天使大学の姿



男子学生と健康相談

にドキドキする一方で、チャペルや20年前と変わらぬ教室を覗くと懐かし、学生時代をしみじみと思い出し、更にお世話になった先生との再会で、一気に心が和みました。

私は天使での学びを様々な場で活かしてきました。助産師、看護師、母子訪問指導員、保健師として、病院・地域・産業の場で看護に携

わってきました。友人には「何がしたいの」「欲張りだ」と言われたこともありましたが、私の中では全ての経験は繋がっていて、無駄なことは何一つ無いと思っています。何かに取り組んでいたら、興味が出てくることある。疑問に思うことがある。深めてみたいことがある。その気持ちに率直に生きてきた結果であり、経験や多くの出会いは宝であると自負しています。

このような私ですが、ずっと変わらず大事にしていることがあります。それは「関わる人が少しでも安らげるように。ほっとできるように」ということです。私は、これは天使大学が持っている「温かさ」に通じるものなのではないかと思っています。存在するだけで「ほっとする」、寄り添ってくれる人や環境の温もりを私は学生時代に感じることができ、それがずっと私の看護の根拠となっているのです。

保健相談室に来てくださる方にも、いつも同じ思いで関わっています。皆さんが健康な生活を送れるよう「体の健康」へのサポートはもちろん、「ほっとできる場所」「体と心の拠り所」となるよう、環境を整え、自己研鑽に励み、皆さんを笑顔で温かく迎えたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

天使祭実施報告

葦の会

「天使祭について」
 葦の会会長 栄養学科2年 奥田唯華
 今年度の天使祭は昨年度のオンライン開催と従来の対面開催を組み合わせた「ハイブリッド型」。コロナウイルスという懸念を抱えながらも、生徒が楽しめることを第一に考え企画を進めました。三年ぶりの模擬店や浴衣着用の推奨など、“今まで”の天使祭と“新しい”天使祭の二つのハイブリッドとも言えるかもしれません。前例がなく、ほぼゼロからのスタートではありましたが、だからこそ皆の夢や願望が詰まった学祭となりました。再出発となった天使祭、やがて従来の形に戻り、本当の復活祭になればと思います。



葦の会副会長 栄養学科2年 垣谷真央

私は今年の天使祭で模擬店の責任者を務めました。模擬店開催は3年ぶりのことで、以前のように開催していたのか知ってる人が少ない中、過去の資料を漁ったり、先生たちからのアドバイスを受たりしながら必死になって準備をしました。当日を迎えるまでの数週間はずっと不安で夜も眠れませんでした。準備をしてもしてもやるのが山積みで終わりが見え、本当に開催できるのか、毎日毎分毎秒不安に思っていました。そんな中模擬店開催前日になってやっと終わりが見え、開催できることが目に見えてわかり、数週間ぶりに朝まで寝ることができました。このときの安心感は未だに忘れられません。当日もハプニングだらけで、模擬店担当者はご飯も食べずに朝から夜までみんな必死になって働いてくれました。今年の模擬店は拙い準備の元で、不満を持った人も多かったのではないかと思います。私自身も正直、模擬店を成功させられたという感覚はありません。ですがこれが私のできる最大限だったなとは思いません。数週間先の見えない暗闇の中をまがき続け、苦しみ続けた私にとっては、当日開催することができたというだけで大きな喜びでした。一緒に仕事をしてくれた仲間や先生、模擬店開催に協力して下さいました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

天使祭実行委員長 看護学科2年 折原聡美
 オンライン開催となった昨年度にはなかった、学内の装飾。今回の天使祭「Easter～復活祭～」では、イースターと縁日という全く違う祭りの要素を取り入れるということを目標に装飾案を考えました。入口付近を縁日風の飾り付けにすることで、浴衣姿で学校祭に来てくれた皆様を「祭り」の雰囲気に取り込むことが出来、その奥はイースターを意識したパステルカラー調の可愛い飾り付けにすることで、それを見てくれた方々を明るく楽しい気分にする事ができたのではないかと思います。完成品を見た皆様に、可愛い!と言っていただけで、また、写真を撮るための映えスポットでも楽しく写真を撮っていただけよう、大変光栄でした。



現在学んでいること～大学院生～ 新しい環境での学び

私は今年度天使大学看護学科を卒業し、春から大学院の保健師コースへと進学しました。現在は、保健師コースの6人で互いに助け合い、励ましあひながら保健師を目指し勉強しています。

学部生の時は、新型コロナウイルス感染症の流行によりオンライン授業、オンラインでの実習が多い状況でした。そのため、現在対面での講義・ディスカッションを行うことが出来、毎日同じ仲間と会える環境は私にとってとても充実している日々であり、楽しい毎日となっています。また、より専門的な知識を学び、少しずつではありますが保健師としての考え方や知識等を身につけられるよう一生懸命勉強しているため、充実した日々にもなっています。このように、4月に入り入学してからは、授業や膨大な課題に追われ毎日多忙ですが、楽しくて充実している日々を過ごし、入学してからの3か月はあっという間でした。

6月には、現地実習で利尻町にも実際に伺うことが出来ました。利尻町へ行く際はバスや船に乗り、交通の利便性について感じまし



速く利尻山をバックに

看護学専攻保健師コース1年 河原 茉莉乃



た。また、利尻町の自然豊かな山や海、島内だけに生息する花に代表される豊かな自然の風景や、利尻町の住民の皆さまの温かみを感じました。さらに、保健師や関係機関が互いに助け合い、限られた環境の中で資源を最大限に生かし住民が安心安全に利尻町で生活できるように支援していることを学びました。加えて、保健師と住民や住民同士の関係性も密であり、顔が見える環境だからこそできる支援や協力体制についても学ぶことが出来ました。このような支援や環境が利尻町で暮らしていく際の、社会資源や医療体制に限られていること、少子高齢化等の課題を改善することに繋がっていると学びました。

これらの学びから、離島での保健師としての役割は、限られた社会資源を最大限に活用し、多職種、関係機関、住民等、町全体で協力し、離島での暮らしを支え合っていくという役割、人と人を繋げる役割、住民自身が自ら健康へ近づけるような支援を行う役割があると私は考えることが出来ました。そして、私もこのような役割を担えるような保健師を目指したいと思います。



利尻町での学修のひとつ

コロナ禍での実習を通して芽生えた助産師としての意識～心の支えの重要性～

助産研究科助産基礎分野1年 石黒悠花



入学して2ヶ月間は、妊娠から出産・産褥にかけての女性と赤ちゃんに対するケアを中心に学習に取り組みました。新型コロナウイルスが未だ収束しない中ではありましたが、通常通り学校に通い、講義や演習を行うことができました。大学で学んできた母性看護学よりも深い知識が求められ、入学当初は慣れない生活と専門的な知識の習得に苦労することが多くありましたが、友人と支え合いながら、勉学に励むことができました。分娩介助練習では、夜遅くまで学校に残り、友人とともにアドバイスをし合いながらお互いの不足している点を共有して、6月から始まる基礎実習に向けた練習に取り組みました。

現在、出産期・産褥期の実習が終了し、周産期は状況の変化が著しく、お産の進行も痛みの感じ方も表現の仕方も一人ひとり違うことを肌で感じる事ができたように思います。初産婦や経産婦、若年や老年などといった先入観は持たず、目の前の産婦さんがどのような状態にあり、どのような訴えをしているのかを十分に捉え、アセスメントし、適切な介入を行う必要があるということを実習を通して学ぶことができました。私が今回、実習させていただいた施設では、新型コロナウイルスの流



演習前のオリエンテーション

行に伴い、立ち会い分娩や出産後の面会が制限されています。その状況の中、出産に関わらせて頂いたことで「学生さんがついていてくれて心強かったです。1人では耐えられませんでした。ありがとうございます。」というお言葉をいただくことができ、助産師としてのやり甲斐を感じる事ができました。未だ収束の目処が立たない新型コロナウイルスの流行の中では、助産師による妊産婦さんへの精神的サポートの充実が求められるように思います。精神的な不安や悩みは、身体的変化としても現れ、その後の経過に深く関係します。今後例数を重ねていく中で、適切な心理面でのサポートを行っていただけるよう学習に取り組んでいきたいと考えています。

実習での関わりを通して、助産師はお母さんと赤ちゃんの2つの命を預かっているという責任の重大さについて改めて認識する機会となりました。それ故に、根拠を持った確実な知識と卓越した技術が求められます。今後の講義や実習を通して、それらを獲得することができるように積極的に学修していきたいです。



お世話になった実習施設の村岡産婦人科医療棟(福島県)

コロナ禍で得た新しい目標～活躍場所を空から大地に変えて～

看護学科1年 石川 あづ紀



新型コロナウイルスの流行が始まった頃、夢だった客室乗務員を目指して専門学校に進学しました。当時は状況を楽観的に考えていました。しかし、その影響は甚大で、空港研修や留学、インターンは次々に中止となり、客室乗務員の採用活動も取り止めとなりました。自分の将来に不安を感じながら卒業を待つ日々を過ごす中で、一つの病気によって全てが変わってしまった社会を目の当たりにした2年間を振り返り、私も医療従事者として社会を支えたいと考えようになりました。もちろん、幼い頃から目指してきた目標を変えることは大きな決断でした。しかし、最終的には、私のように夢を諦めざるを得ず、悔しさを味わう人を少しでも減らしたいと思い、医療

現場の最前線で人々の日常生活を守る看護師を目指すことに決めました。

現在は看護学科の1年次生として充実した環境の中で学んでいます。客室乗務員と看護師は、全く違う職業のように見えて似たところも多々あります。そのため、今までの学びを活かすことができる場面もありつつ、看護独自の視点に驚かされることもあり、新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。

コロナ禍で人生は大きく変わりましたが、今の素晴らしい学習環境や親身な先生方、友人に恵まれている事にとても感謝しています。人とは違う経験をしたからこそ出来る患者さんへの働きかけが必ずあると思うので、今までの経験の全てを活かして、自分にとっての看護を4年間で模索していきたいです。

現在学んでいること～学部生～

コロナ禍入学した私～おきあがりこぼしに慣れて～



私たち3年生は、入学した当初からコロナ禍であり、対面の授業ではなくオンライン授業とオンデマンド授業でした。オンライン授業やオンデマンド授業では、学生は顔を出さなくてもいいことやそもそも顔を出せないため、1年生の時にはクラスメイトの顔と名前を一致させることが困難でした。加えて、先生方も顔を出さない授業があったので、未だに一部の先生は声しか知らないということが起こっています。特に私の場合は、名前と顔を一致させることが昔から苦手だったので、オンライン授業の時は、先生も含めて「誰が誰?」という状態でした。

2年生の後半ぐらいから徐々に対面授業が増え始めました。ようやく徐々に関われる機会が増え、声と名前が一致できるようになり、友人が増えました。また、戴帽式はコロナの影響により、例年と少し違った形態にはなりましたが、挙行することができ、私的には初



クラスの仲間と

新たな環境での成長～落ち着きを取り戻し始めたコロナ禍の生活～



私は、入学してから制限がありつつも多くの対面授業や行事を友人と過ごしています。コロナ禍でもワクチンの普及や多くの人の努力によって、少しずつ落ち着きのある生活を取り戻し始めています。オンライン授業も高校時代から行っていたので慣れもあってあまり苦労なく進められています。

私の大学生生活の学びは、コロナ禍でうまくできないことや変更になることがあり、学ぼうとしてもできないことが何度かありました。コロナが落ち着いてきたことで、現在は実際に友人に会うことができず、授業もオンラインのみであった生活より充実した楽しいものになっています。

ですが、コロナ禍だからこそ、自分の生活を見直し、時間を沢



自己学習中のひとこま

看護学科3年 國井 綾香

めて、「ああ、学年が上がったのだな。」「クラスが一丸となっている」と感じることができました。

今年からようやく対面授業が中心となりました。未だに名前と顔が一致していない学友もいますが、少しずつ改善し始めました。ですが、対面授業が中心となったことで、オンライン授業やオンデマンド授業に慣れていない私には問題が発生しました。それは、時間の活用の仕方です。PCを使用した授業では、15分程前に授業の準備をし、10分前ぐらいにPCの前に座っていればよかったのですが、対面授業の場合、通学時間を見積もって行動しないと間に合わないということが起こりました。大学に行くというサイクルができていなかったのです。この問題を解決するために、自己学習する時間や家事を行う時間の確保をどうすればいいのかを考えました。そこで、スケジュール帳を活用し、時間管理を行いました。そうすることで、課題に取り組む時間を確保しました。

ざっと、1年生から今までの大学生生活のことを上げてきましたが、最後に私がこれまでの学生生活の中での気づきとこれからの思いを以下に記載したいと思います。

コロナ禍から始まった学生生活で、いくつもの問題が発生し、困難の連続と感ずることが多々ありました。ですが、困難があったからこそ、今が充実していると感じることができたように思います。また、自分では解決できない困難もありますが、工夫次第で問題が解消されることもあります。まずは行動してみる、そこから始まるものがあると思います。学年が上がるにつれて課題が増え、1日の時間がなくなるでしょう。様々な問題が起きてめげそうになっても、何でも立ち上がり行動を起こせるように、「七転び八起き」を座右の銘として、これからも継続した努力をしていきたいです。

看護学科1年 佐藤 大空

山使って学びを深めることができている、普段はできなかった英会話の学習などにも時間を割くことができている。

私はオンライン授業と対面授業のうまい付き合い方を模索しながら生活しています。大学生生活は今までの高校生活などとは違い時間の使い方の自由度が高く試行錯誤しながら日々を過ごしています。

オンライン授業は先生方によって作成された授業動画を見て課題を提出するものが多く、時間を自分で調節しながら授業を受けられることができます。時間を調節しながら授業を受けられることで、授業の復習や予習を効率よく行うことができ、自分の生活スタイルに合わせた学習を行えます。

対面授業では実際に友人と話し合い、グループワークでの同じ学部の人たちと意見交換、先生方へのその場での質問などができるので学習がより深められます。さらに、大学内では友人とともに予習や復習を行うことで、自分の学習だけでは理解できなかったことも意見交換を行いながら考えられ、時には雑談を交えて学習を行っているため、楽しくモチベーションを維持しながら理解を深めることにつながっています。

コロナが落ち着きを見せる中でも、完全に終息しないためオンライン授業はまだまだ無くならず、対面授業のように意見を深めることがしきれない面もあるが、どちらの授業にも利点があるので、利点をうまく利用して友人と切磋琢磨しながら協力して学問に励んでいきたいです。オンライン授業ではインプット、対面授業ではアウトプットを意識した学習にしていきたいと考えています。この1年を友人と共にしっかりと学びながらも、楽しく充実したものにしていきたいです。

現在の学習と今後の目標について～臨地実習から学び得たこと～

栄養学科4年 小林 愛夢菜



コロナウイルスによる制限は続いていますが、少しずつ以前のような対面授業や実習が増えてきました。オンライン授業を経験したことで、今では状況に応じて対面と遠隔を上手く使い分け、グループワークや実習準備などができるようになったと感じます。また、遠隔でのコミュニケーションの難しさを感じ、日頃から、相手の思



サークル活動

いをくみ取ったり、自分の思いを正確に伝えられることを意識するようになりました。

私はコロナ禍の大学生活で、周りへの気持ちのもち方や学習の取り組み方が変化したと思います。昨年からは実習に代わり、初めは実習に行けないことをとても悔しく感じました。しかし、実習準備から実習期間まで、実

習先の先生が、管理栄養士の業務や対象者の皆様の様子などを、写真や動画で細かく伝えてくださったり、学内の先生方が、現場で働く管理栄養士の先生の講義や実習を受けられる場を設けてくださいました。私はこの実習を通して、学生の学習のために、様々の方々の関わりや多くの準備があることを強く実感し、授業や実習を当たり前に行われる環境があることに、感謝の気持ちを忘れてはいけないと改めて思いました。

また今年6月には、保健センターに実習に行きました。コロナ禍における地域の事業は、大人数での料理教室やイベントなどに制限はありましたが、その中でも実施できる事業が検討されていました。何か制限があっても、置かれている状況に柔軟に対応し、できることや新しいやり方を探していくことで、自分自身の学びや活動の幅が広がると気づきました。

これらのことから今後は、関わる方や支えてくださる方、周りの環境に感謝し、今の状況の中で最大限できることを深めたり、想像できなかったことから知識や経験を増やしていきたいよう努力したいと思います。また、国家試験や将来に向けての学習はもちろん、大学生生活だからこそできる体験も大切にして、色々な視点で食や健康について考え、向き合っていけるようになりたいです。

入学してからの学び～対面で協力することの大切さ～

栄養学科1年 中川 すず



天使大学に入学してから約3ヶ月が経ちました。不安だった大学生活にも慣れ始め、今では仲の良い友達もできる毎日を過ごしています。新型コロナウイルスが流行してから3年ほどが経ち、コ



調理学実習にて

ロナ禍の生活も日常となってきました。ですが、今年度から少しずつ新型コロナウイルス流行前の生活に戻ってきています。対面授業も増え、友達と直接会い授業を受けることができました。その中でも印象に残っているのは、調理学実習です。調理学実習では、普段話すことの少ない人とも話すことができ、友達作りの良いきっかけになりました。さらに、栄養学科ならではの科目なので、とても楽しくみんなと協力するという大切さを改めて実感することができました。また、今年行った学校祭については、昨年まで流行前の形で行うことができなかったらしく、昨年まで対面で行えなかった学校祭ということ、そして3年ぶりの模擬店ということでもとても賑わっていて、私自身もすごく楽しい雰囲気味わうことができました。

今述べたように、私たちは新型コロナウイルスに制限された生活を送っています。その制限された日々も緩和されてきていることを考えると、新型コロナウイルスが流行する前の日常が当たり前ではないこと、当たり前ということがどれだけ素敵なおことをこれからもずっと忘れないよう、日々過ごしていきたいです。

2022年度 天使大学・北海道科学大学連携公開講座について

「いのちみつめて」をテーマに、医療、薬学、看護学、栄養学の各分野から、生活に役立つ情報をわかりやすく解説します。昨年度に引き続き YouTube によるオンデマンド配信で実施します（事前の受講申込が必要です）。

○期間（予定）：2022年10月～12月

○申込方法：天使大学ホームページより申し込みを行ってください。

※申込ページは9月中旬頃 掲載予定



2021年度 進路・就職状況

学科・研究科	看護学科	栄養学科	大学院助産研究科	大学院看護学専攻	大学院栄養管理学専攻
就職決定者	78	91	19	3	3
進学決定者	16	0	0	0	0
進路希望無し	1	4	0	0	0
卒業者	95	95	19	3	3

【看護学科】就職・進学先

看護学科		看護学
<p>国立病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 独立行政法人国立病院機構 帯広病院 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター <p>公立・公的</p> <p>社会保険関係法人の病院</p> <ul style="list-style-type: none"> JA北海道厚生連 札幌厚生病院 JA北海道厚生連 帯広厚生病院 市立札幌病院 KKR札幌医療センター 国家公務員共済組合連合会 斗南病院 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 名寄市立総合病院 独立行政法人大阪府立病院機構 大阪急性期・総合医療センター 	<p>大学病院(国公立)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道大学病院 札幌医科大学附属病院 埼玉県立病院機構 <p>大学病院(私立)</p> <ul style="list-style-type: none"> 慶応義塾大学病院 杏林大学医学部附属病院 東京医科大学病院 東邦大学医療センター 大橋病院 日本大学医学部附属板橋病院 慶応義塾大学病院 <p>一般病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 天使病院 札幌植心会病院 手稲深仁会病院 NTT東日本札幌病院 JR札幌病院 東札幌病院 札幌徳洲会病院 札幌東徳洲会病院 	<p>看護系大学院</p> <ul style="list-style-type: none"> 天使大学大学院 看護栄養学研究科 看護学専攻 保健師コース 天使大学大学院 助産研究科 <p>看護系その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌医科大学専攻科 公衆衛生看護学専攻 札幌医科大学専攻科 助産学専攻

【栄養学科】就職先

<p>自治体</p> <ul style="list-style-type: none"> 札幌市 苫小牧市 余市町 北海道 <p>教育機関</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道教育委員会 <p>給食委託会社</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社グリーンハウス 株式会社北海道グリーンハウス 日清医療食品株式会社 北海道支店 日清医療食品株式会社 横浜支店 日清医療食品株式会社 東京支店 エムサービスジャパン株式会社 メリックス株式会社 株式会社魚国総本社 株式会社LEOC 株式会社フレアサービス 株式会社道央環境センター 	<p>病院</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道がんセンター 手稲深仁会病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 KKR札幌医療センター 札幌徳洲会病院 札幌東徳洲会病院 北海道厚生農業協同組合連合会 北海道労働者医療協会 宮の森病院 名寄市立総合病院 砂川市立病院 札幌佐藤病院 札幌しちかば台病院 H・N・メディック 札幌花園病院 定山深病院 恵庭みどりのクリニック 	<p>保育所</p> <ul style="list-style-type: none"> どろんこ会 WITH 琴似教会幼稚園 幼保連携型認定こども園 白雪夢 石狩友愛福祉会 モード・プランニング・ジャパン 新栄会 新栄保育園 桃の花メイト会 さっぽろこども園 認定こども園 宮の森メープル保育園 啓明ともいき保育園 屯田南保育園 <p>福祉施設</p> <ul style="list-style-type: none"> 旭川共生会 いちはつの会 鋼路啓生会 クビド・フェア ノアコンツェル Hop ぷちりべ 	<p>一般企業</p> <ul style="list-style-type: none"> 株式会社ツルハ 日本食品製造合資会社 札幌市農業協同組合 株式会社ニッセンレンエスコート 株式会社ロイズコンフェルト 東日本フード株式会社 株式会社ケイ・エス・オー ベストリハ株式会社 株式会社つうけんアクト 株式会社ハイデイ高
---	--	---	--

【大学院】就職先

<p>助産基礎分野</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会医療法人 母恋 天使病院 市立札幌病院 札幌医科大学附属病院 北海道大学病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院 砂川市立病院 鋼路赤十字病院 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉法人 函館厚生院 函館中央病院 社会福祉法人 聖母会 聖母病院 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター 愛育病院 筑波大学附属病院 独立行政法人 国立病院機構 埼玉病院 	<p>看護学専攻保健師コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 南富良野町 北海道庁 俱知安保健所 <p>看護学専攻修士論文コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 天使大学 	<p>栄養管理学専攻博士前期課程</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療法人天公会 石狩ファミリアホスピタル北海道教育委員会 日本赤十字社 栗山赤十字病院 独立行政法人 JCHO仙台病院
---	--	--	---

選抜結果

看護学科			栄養学科			看護学専攻			栄養管理学専攻 博士前期課程			栄養管理学専攻 博士後期課程			助産研究科助産基礎分野		
選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数	選抜種別	受験者数	合格者数
公募制推薦	57	37	公募制推薦	52	43	推薦型	2	2	一般Ⅰ期	0	0	一般Ⅰ期	0	0	推薦型	14	12
社会人	3	1	社会人	0	0	一般Ⅰ期	6	5	一般Ⅱ期	1	1	一般Ⅱ期	1	1	一般Ⅰ期	23	12
一般	227	91	一般	59	47	一般Ⅱ期	1	1	総計	1	1	総計	1	1	社会人Ⅰ期	4	0
共通テスト利用	188	86	共通テスト利用	41	37	総計	9	8							一般Ⅱ期	7	2
															社会人Ⅱ期	3	0

あなたの声をお聞かせください

天使大学報「天使」では、読者のみなさまの声を生かした誌面づくりを目指しています。ご意見、ご感想、取り上げてほしい話題等ございましたら、下記あて先までお寄せください。

あて先／〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30 天使大学広報委員会 tel.011-741-1051 fax.011-741-1077



天使大学

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科・助産研究科(専門職学位課程)
〒065-0013 北海道札幌市東区北13条東3丁目1-30
TEL.011-741-1051 FAX.011-741-1077

看護栄養学部／看護学科・栄養学科
大学院／看護栄養学研究科・助産研究科(専門職学位課程)

第33号 2022年8月1日発行 天使大学広報委員会

<https://www.tenshi.ac.jp>

